資料　6

平成 30 年度
京都市水道事業・公共下水道事業

経営評価

平成 29 年度事業

概要版

（目次）
経営戦略と経営評価・・・・1
決算概要・・・・・・・・・2
経営指標評価・・・・・・・3
取組項目評価・・・・・・・4～9
中期経営プランの総括・・・10

平成 29 年度事業の評価結果はどうなっているのかな？

上下水道局マスコットキャラクター
ホタルの澄都（すみと）くん

料金は何に使われているのかしら？

上下水道局マスコットキャラクター
ホタルのひかりちゃん

平成 30 年 9 月
京都市上下水道局

水道事業・公共下水道事業の経営戦略と経営評価

上下水道局では，水道事業・公共下水道事業の目指す将来像やその実現に向けた 10 年間の取組をまとめた「京（みやこ）の水ビジョン」，その具体的な実施計画である「中期経営プラン」に基づき，事業を推進しています。

経営評価は，事業推進に向けた PDCA サイクルの一環として実施するもので，毎年度の取組結果等を「経営指標評価」と「取組項目評価」の 2 つの方法で評価し，振り返ることにより，今後の事業運営等に活用しています。

経営指標評価

財務面を中心とした客観的な業務指標を用いて，収益性や生産性など 7 つの区分から水道事業，公共下水道事業の経営状況の評価・分析を行いました。 （3 ページへ）

取組項目評価

「中期経営プラン（2013-2017）」に掲げる 5 つの重点項目と重点項目を構成する取組項目について，進捗状況の点検・評価を行いました。 （4 ページへ）

上下水道局経営戦略

京(みやこ)の水ビジョン (2008-2017)

基本理念

くらしのなかにはいつも水があります。
私たち京都市上下水道局は、
先人から受け継いだ、水道、下水道を守り、育むことにより、
皆さまのくらしに安らぎと潤いをお届けしたいと考えています。
そして、ひとまちくらしを支える京の水をあすへつなぎます。

「京（みやこ）の水ビジョン」(2008－2017)は平成 20 年度からの 10 年間に取り組むべき課題や目標を示した経営戦略です。

ビジョンで掲げた基本理念の下，私たち上下水道局に課せられた社会的な役割や使命を果たしつつ，水道・下水道サービスの質的な向上を図っていくため，**「安全・安心」，「環境・くらし」，「安定・維持向上」，「サービス」，「経営」**といったキーワードを基本とする 5 つの施策目標を掲げ，その達成に向けて 22 の重点推進施策を設定しています

中期経営プラン (2013-2017)

「中期経営プラン(2013－2017)」は，ビジョンの後期 5 箇年の具体的な実施計画です。

プランは，5 つの重点項目を中心に 93 の取組項目を推進する「事業推進計画」，業務の効率化を推進する「第 5 期効率化推進計画」及び「財政基盤強化計画」の 3 つの計画で構成されています。

これらの計画に掲げた事業を計画的に推進するとともに，経営評価の実施による執行状況のチェックにより，継続的な業務改善や市民サービスの向上を進めています。

水道事業・公共下水道事業の決算概要（平成 29 年度）

平成 29 年度は，「京（みやこ）の水ビジョン」及びその後期 5 箇年の実施計画である「中期経営プラン（2013－2017）」の締めくくりの年として，プランに掲げた目標の達成に向けて着実に事業を推進しました。
また，山間地域における上下水道事業を将来にわたり安定的に運営するため，水道事業・公共下水道事業への統合を実施し，一体的な運営を行いました。

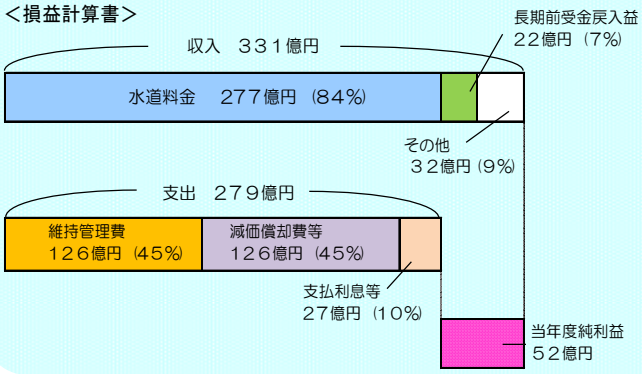
水道事業

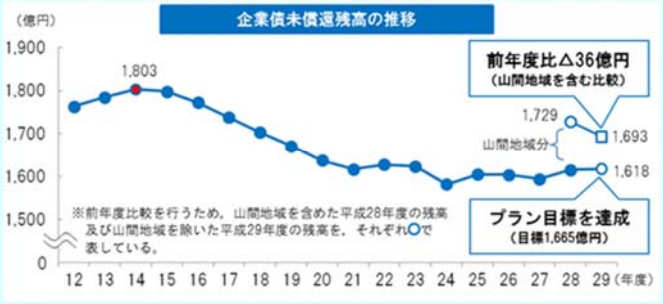
水道料金の基となる有収水量は，山間地域の水道事業（平成 28 年度までは地域水道事業及び京北地域水道事業として運営）の統合に加え，ホテル・旅館など一部の業種で使用水量が増加したことにより，前年度決算との比較では増加（水量+0.3%，収入+0.4%）となったものの，前年度の水量及び収入に山間地域分を含めて比較（統合による影響を除いて比較）した場合，節水型社会の定着による減少によって，水量・収入のいずれも減少（水量△0.3%，収入△0.4%）となりました。

支出においては，山間地域の水道事業の統合による増加の一方で，営業所の再編など一層の経営効率化に努めた結果，当年度純損益は 51 億 6,100 万円と，3 年連続の黒字となりました。このうち現金収入を伴わない利益を除いた 29 億 3,400 万円を建設改良積立金として，議会の議決を経て，利益処分します。

なお，企業債の残高は，前年度（山間地域分を含む）と比べて減少し，1,693 億円となりました。

<損益計算書>





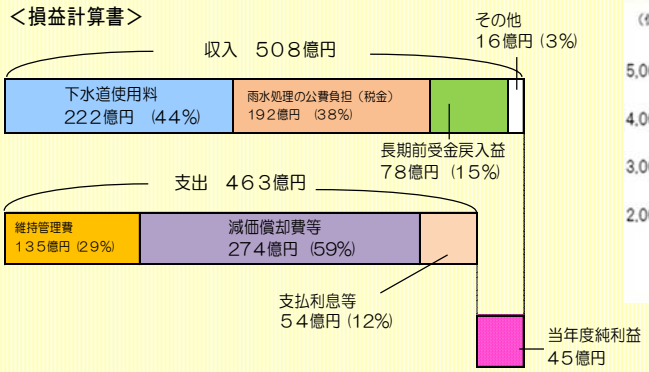
公共下水道事業

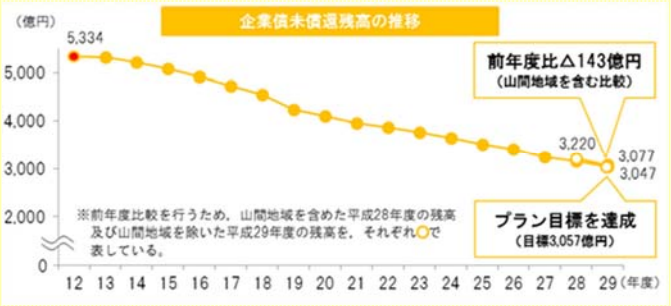
下水道使用料収入の基となる有収汚水量は，山間地域の下水道事業（特定環境保全公共下水道事業）の統合に加え，ホテル・旅館など一部の業種で使用水量が増加した一方で，節水型社会の定着による減少によって，前年度決算との比較（水量△0.1%，収入△0.3%）においても，前年度の水量及び収入に山間地域分を含む比較（水量△0.5%，収入△0.8%）においても，いずれも減少となりました。

支出においては，山間地域の下水道事業の統合による増加の一方で，職員定数の削減や効率的な運営による費用の抑制に努めた結果，当年度純損益は 45 億 4,100 万円と，8 年連続の黒字となりました。このうち現金収入を伴わない利益を除いた 35 億 9,300 万円を減債積立金として，議会の議決を経て，利益処分します。

なお，企業債の残高は，前年度（山間地域分を含む）と比べて減少し，3,077 億円となりました。

<損益計算書>





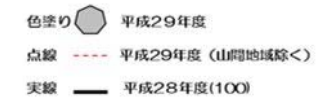
山間地域の上下水道事業の統合について

上述のとおり，平成 29 年度から，山間地域における上下水道事業を水道事業・公共下水道事業に統合したため，平成 29 年度決算は山間地域の上下水道事業を含んだ数値となっており，28 年度の決算と比較すると，統合の影響による増減が生じます。

詳細については，経営指標評価（P.3）の結果を御覧ください。

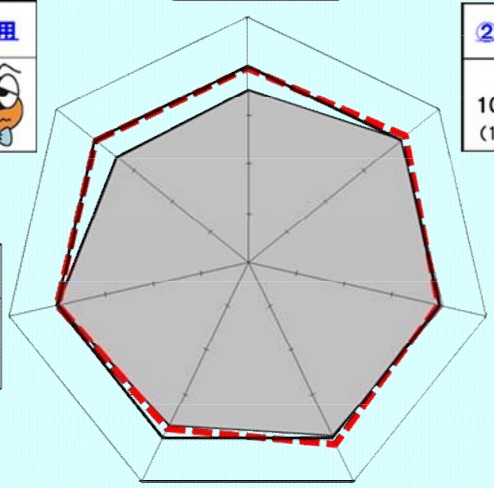
経営指標評価

財務指標を中心とした業務指標により，7 つの評価区分を用いて経営状況の改善度や中長期的な経営分析を行っています。



水道事業

前年度を100として改善度を示しています。



山間地域の水道事業を統合した影響により減価償却費等の費用が増加したことで指標値が低下しました。

減価償却費の増や企業債の増加等，統合の影響が指標値の向上・低下の双方に働いたことで前年度並みとなりました。

配水管更新のスピードアップや統合によって比較的新しい固定資産が増加したことにより，指標値が向上しました。

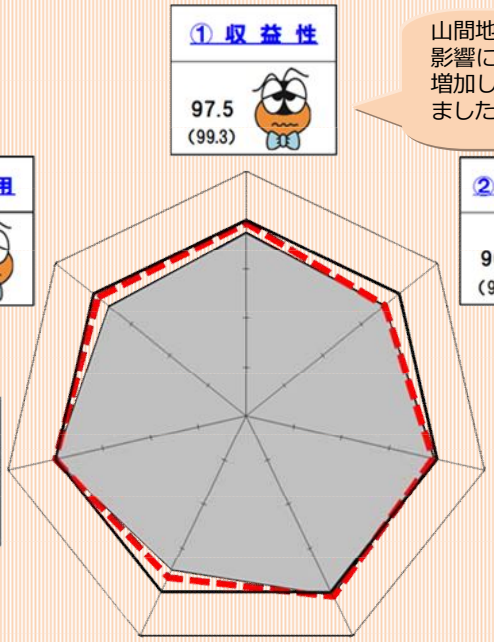
一部の施設を廃止したことにより施設の稼働率が向上したものの，統合等により固定資産が増加した影響により，指標値が低下しました。，

統合による職員の受入等の影響により，指標値が低下しました

1 ㎥当たりの水道水の平均価格は，166.4 円です。
大都市※平均と比べると，
2.1 円（1.2%）低価格です。

1 ㎥をつくるコストは，統合により有収水量が前年度と比べ増加した一方で統合に伴い維持管理費や資本費（減価償却等）の費用も増加したことから，前年度より 8.0 円高い 154.1 円です。
大都市※平均と比べると，
3.8 円（2.4%）低コストです。

公共下水道事業



山間地域の下水道事業を統合した影響により減価償却費等の費用が増加したことで，指標値が低下しました。

企業債の削減に努めた一方で，流動負債の増加等により指標値が低下しました。

管路の更新等を上回るペースで老朽化が進んでいることにより，指標値が低下しました。

一部の施設を停止したことにより施設の稼働率が上がり，指標値が向上しました。

節水型社会の定着による有収汚水量の減少と，統合による職員受入等の影響により指標値が低下しました。

1 ㎥当たりの下水道使用にかかる平均価格は 122.2 円です。
大都市※平均と比べると，20.3 円（14.2%）低価格です。

1 ㎥の下水を処理するのにかかるコストは，105.4 円です。
大都市※平均と比べると，
23.4 円（18.2%）低コストです。

<山間地域の上下水道事業を統合した影響について>
上記レーダーチャートの点線及び各評価区分の下段の（ ）内数値は，平成 29 年度の指標値について，山間地域に関する数値を除いて算出したものです。点線と色塗りの線が離れているほど，統合の影響が大きいことを表しています。

※ 大都市比較は，東京都及び平成 29 年度における政令指定都市（水道事業では県が主に事業を行う千葉市，相模原市を除く計 19 都市，下水道事業では計 21 都市）で比較しました。

取組項目評価

取組項目評価では，各取組における単年度の目標に対する達成度を５段階で評価しました。
ここでは，中期経営プランに掲げる重点項目に対する評価結果を御紹介します。
道路の下でくらしを支える管路施設の改築更新や雨に強く安心できる浸水対策の推進により，５つの重点項目のうち，２つがＡ評価，３つがＢ評価となりました。

評価方法は，

A	B	C	D	E
十分に達成されている	かなり達成されている	そこそこ達成されている	あまり達成されていない	達成されていない

の５段階評価

取組項目ごとの評価結果を点数化（a～e を 5～1）し，重点項目別に集約した平均値が，
4.6 以上　→A評価
3.6～4.5　→B評価
2.6～3.5　→C評価
1.6～2.5　→D評価
1.5 以下　→E評価

重点項目別の評価は，取組項目ごとの評価結果を集約したものです。

＜取組項目ごとの評価基準＞

a	十分に達成されている	（目標値の 100%以上達成）
b	かなり達成されている	（目標値の 80%～99%）
c	そこそこ達成されている	（目標値の 50%～79%）
d	あまり達成されていない	（目標値の 30%～49%）
e	達成されていない	（目標値の 29%以下）

＜中期経営プランに対する進捗状況＞

中期経営プラン（25～29 年度）について，29 年度末時点における５箇年全体の進捗状況を澄都（すみと）くんの表情としずくで示しています。

中期経営プラン(2013-2017)に掲げる５つの重点項目

重点項目①　改築更新の推進・・・・・・・・・５ページ
重点項目②　災害対策の強化・・・・・・・・・６ページ
重点項目③　環境対策の充実・・・・・・・・・７ページ
重点項目④　お客さま満足度の向上・・・・・８ページ
重点項目⑤　経営基盤の強化・・・・・・・・・９ページ

重点項目①　改築更新の推進

29年度の単年度評価	B	浄水場及び水環境保全センターの工事の一部に遅れがあったものの，管路の改築更新は順調に進捗し，配水管更新率等の数値目標も達成したため，B評価となりました。

①　道路の下でくらしを支える管路施設の改築更新

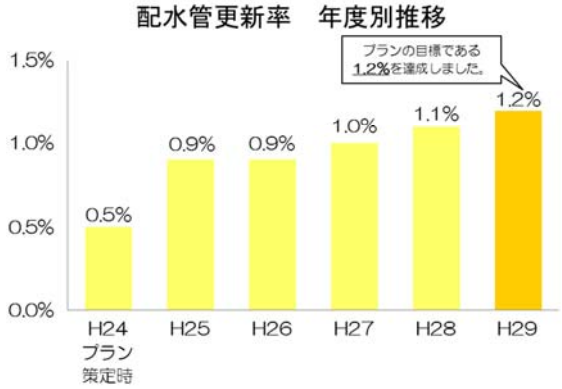
29 年度の主な実績

●水道配水管の更新の推進

・配水管の更新率 1.2%（目標 1.2%），配水管及び補助配水管＊1の布設替工事の実施 a

●下水道管路施設の計画的な点検・改築更新

・下水道管路地震対策率 88.4%（目標 88.4%），経年管老朽化対策工事の実施，管路地震対策工事の実施　など b



配水管更新率（%）

$$= \frac{\text{更新された配水管延長}}{\text{配水管の総延長}} \times 100$$

プランでは更新率を段階的に引き上げ，平成29年度までに1.2%を目指すこととし，目標を達成しました。

②　基幹施設の機能維持･向上のための改築更新

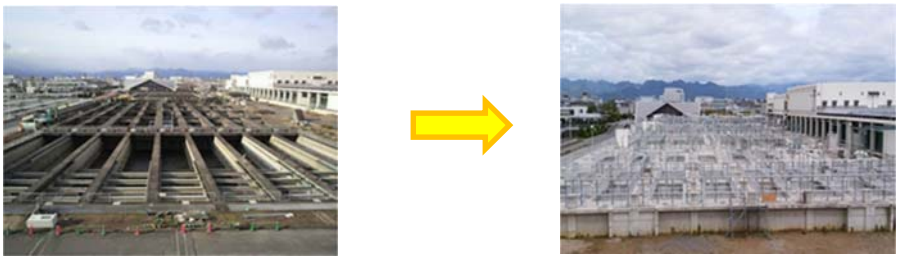
29 年度の主な実績

●浄水施設等の改築更新

・蹴上浄水場第 1 高区配水池＊2改良工事の完了，新山科浄水場高区送水ポンプ設備工事更新工事の実施　など b

●水環境保全センター及びポンプ場の改築更新

・鳥羽水環境保全センター自家発電設備工事の実施，
伏見水環境保全センター合流系最初ちんでん池設備工事の実施　など b



下水道の水処理施設の改築更新

③　水需要に応じた施設規模の適正化及び施設の再編成

29 年度の主な実績

●下水処理における鳥羽・吉祥院処理区の統合

・吉祥院支所の処理機能の縮小に向けた技術的な検討を引き続き実施　など a

【中期経営プラン（25～29 年度）に対する進捗状況】

29 年度末時点における 5 箇年全体の進捗状況		浄水場，水環境保全センターの改築工事で一部遅れが生じたものの，水道配水管の更新の推進や下水道管路施設の計画的な点検・改築更新，下水処理における処理区の統合等，プランの目標水準を概ね達成したことから「概ね順調に進捗した」としています。

＊1　直接給水装置を取り付けるための配水管のうち，管網を形成せず行き止まりになっている口径 25～75mm の管のこと。
＊2　配水する区域の水の需要量に応じて，適切に水を配るため，浄水場から送られた水道水を一時的に貯めておく施設のこと。

重点項目②　災害対策の強化

29 年度の単年度評価	B	水道の連絡幹線配水管布設工事で遅れがあったものの，耐震化に係る数値目標については概ね達成でき，また雨水幹線整備等の浸水対策，危機管理の強化に向けた取組等も順調に進捗したため，B評価となりました。

①　地震等の災害に強い上下水道施設の整備

29 年度の主な実績

●上下水道管路・施設の耐震化の促進

・水道管路の耐震化率 15.0%（目標 15.4%），配水管及び補助配水管耐震化工事の実施，蹴上浄水場第 1 高区配水池改良工事の完了　など　b

・吉田・御池・花園連絡幹線配水管＊1 布設工事の実施　d

※連絡幹線配水管布設工事について，設計・積算の見直しや他の整備工事との工程調整等が必要となり，工事の着手が遅れたため，新プランにおいて計画を見直した。
　なお，今後は事業の推進に影響が出ないよう，進捗管理を徹底する。

・下水道管路地震対策率 88.4%（目標 88.4%），経年管老朽化対策工事の実施，管路地震対策工事の実施【再掲】　など　b

・伏見水環境保全センター合流系最初ちんでん池設備工事の実施，災害用マンホールトイレ＊2 設置のための管路地震対策工事の実施　など　b

連絡幹線配水管による給水のバックアップ機能の強化イメージ

●導水施設＊3 の耐震化による安定した取水の確保

・新山科浄水場導水トンネル築造工事着手　b

②　雨に強く安心できる浸水対策の推進

29 年度の主な実績

●地下街等を有する地区等の浸水対策

・雨水整備率（10 年確率降雨対応）28.0%（目標 28.0%），花見小路幹線整備工事の実施　a

・河川整備等と連携した新川 6 号幹線整備工事の実施　b

・伏見第 3 導水きょ，山科川 13-1 号雨水幹線の各整備工事の実施　など　a

・雨水貯留施設設置助成金制度 助成基数 92 基（目標 120 基），雨水浸透ます設置助成金制度　助成基数 246 基（目標 240 基）など　b

雨水貯留施設　住宅の屋根等に降った雨水を雨どいから集水し，タンク等に貯留する施設。雨水を「ためる」役割を果たし，雨水の流出抑制のほか，草花の水やりや打ち水等にも有効活用できる。

雨水浸透ます　住宅の屋根等に降った雨水を雨どいから集水し，地中に浸透させる施設。雨水を地中に「しみこませる」役割を果たし，雨水の流出抑制のほか，地下水の保全にも寄与する。

③　災害・事故等危機時における迅速な対応

29 年度の主な実績

●危機管理対策の強化

・日本水道協会京都府支部において合同応急給水訓練を実施，「京の水道　疏水物語」の名称を「京のかがやき　疏水物語」に変更，賞味期限を 10 年まで延長し，デザインのリニューアルも実施　など　a

応急給水訓練の様子

●防災拠点の充実

・太秦庁舎の災害時の活用方針を確立するとともに，災害時活動拠点となる 2 階会議室への防災備品の配備及びテレビ会議システム等を導入，京都市総合防災訓練において応急給水訓練を実施　など　a

【中期経営プラン（25～29 年度）に対する進捗状況】

29 年度末時点における 5 箇年全体の進捗状況		水道の連絡幹線配水管の布設工事に一部遅れが生じたものの，配水管や下水道管路の耐震化の推進，浸水対策による雨水整備率の向上，危機管理対策の強化・充実を図ることができたことから，プランに対しては「概ね順調に進捗した」としています。

＊1　異なる給水区域の配水幹線をつなぐ水道管のことで，水道水の給水を融通し合うことができる。

＊2　多くの人が避難する避難所や広域避難場所に，下水道に直結した複数のマンホールを設置しておくことで，災害発生時にマンホール蓋を開けてトイレとして使用できるように整備された施設のこと。

＊3　水道水のもととなる原水を，浄水場まで運ぶトンネルや管のこと。京都市には，琵琶湖疏水から各浄水場，宇治川から新山科浄水場を結ぶ導水トンネルや導水管がある。

重点項目③　環境対策の充実

29 年度の単年度評価	B	合流改善施設の整備工事の遅れから合流式下水道＊1 改善率について数値目標を達成できなかったものの，温室効果ガス排出量の削減等については概ね計画どおり実施できたため，B 評価となりました。

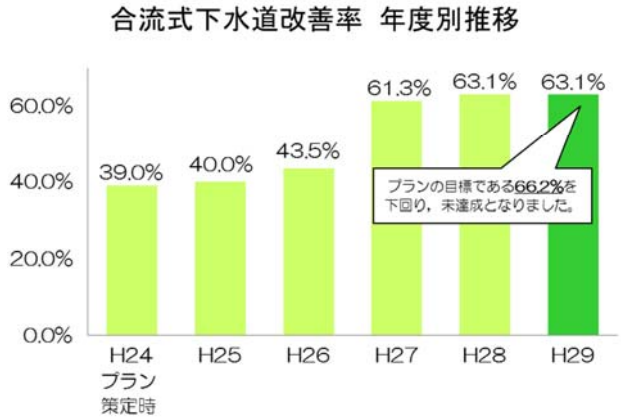
①　市内河川と下流水域の水環境を守る下水の高度処理の推進

29 年度の主な実績

●合流式下水道の改善

・合流式下水道改善率 63.1%（目標 66.2%），
津知橋幹線整備工事の実施　など　b

・雨天時放流水質検査の実施，伏見水環境保全センター合流改善施設の設備工事の実施　など　b



合流式下水道改善率（%）

$$= \frac{\text{合流式下水道改善済面積}}{\text{合流式区域面積}} \times 100$$

プランでは平成29年度までに合流式下水道改善率を66.2%にすることを目標としていましたが，地盤条件の影響による工事の遅れから，目標未達成となりました。
なお，同工事は30年9月に完了し，目標を達成することを見込んでいます。

②　環境保全の取組の推進

29 年度の主な実績

●再生可能エネルギーの利用拡大等による温室効果ガスの削減

・太秦庁舎の太陽光発電設備工事の完了　など　a

●資源循環の推進

・下水汚泥固形燃料化事業の実施に当たり，公民連携手法（ＤＢＯ方式＊2）を採用し，本事業に係る事業者を選定

・鳥羽水環境保全センター汚泥濃縮・消化タンク築造工事の実施

・消化ガス＊3の汚泥焼却炉の燃料等への活用と脱水汚泥等のセメント原料化を推進　b

鳥羽水環境保全センター汚泥消化タンクの再整備

【中期経営プラン（25～29 年度）に対する進捗状況】

29 年度末時点における 5 箇年全体の進捗状況	概ね順調に進捗した。	合流式下水道の改善率は目標未達となりましたが，下水の高度処理施設整備や再生可能エネルギーの利用拡大，消化ガス・汚泥等の再生可能な資源の有効活用を推進したことから，プランに対しては「概ね順調に進捗した」としています。

＊1　汚水と雨水を同一の管きょで集め，処理する下水道の方式。これに対し，汚水と雨水を別々の管きょで集める方式を「分流式下水道」という。合流式下水道では，雨天時に汚水の混じった雨水が雨水吐口から河川等へ放流されるため，改善対策を行っている。
＊2　設計・建設から運転管理等を一括して民間事業者に委託する方式のこと。
＊3　微生物の働きにより，汚泥中の有機物を分解する処理（消化）の副産物として発生するメタンを主成分としたガスのこと。

重点項目④　お客さま満足度の向上

29 年度の単年度評価	A	事業所を集約し，市内北部エリアの事業・防災拠点となる太秦庁舎を整備したほか，お客さま満足度向上に向けた各種施策や広報・広聴活動を積極的に推進したことでＡ評価となりました。

①　お客さま満足度の向上を目指した料金施策の推進

29 年度の主な実績

●今日の社会状況の変化に対応した料金制度・料金支払方法への見直し

・「水道施設維持負担金制度」の既存対象者への個別説明の実施，制度創設に関する各種広報の実施，同制度の既存対象者からの届出受付の実施　など　a

・口座振替利用者を対象とした割引制度及びクレジットカード継続払い制度の周知（市民イベントにおいて制度の PR，市民しんぶんへの記事の掲載等）　a

・開栓時の「水道便利袋」＊1 封入物の拡充（配布件数　27,705 件）　など　a

・事業統合により，山間地域における口座振替割引制度及びクレジットカード継続払制度の運用を開始

②　お客さまが利用しやすい仕組みづくり

29 年度の主な実績

●お客さまの利便性の向上

・給水申込書等の英語版記入例の作成（外国人のお客さまに向けた受付方法の充実）　a

●お客さまが利用しやすい窓口づくり

・各区役所・支所の日曜開所日に上下水道局の臨時相談窓口を設置，市内北部エリアの事業・防災の拠点となる太秦庁舎を開庁など　a

太秦庁舎の外観

③　積極的に行動するサービスの充実

29 年度の主な実績

●上下水道局営業所の抜本的再編　西部営業所開所（7 月），新北部営業所開所に向けた左京営業所庁舎改修工事の実施　など　a

●出前トークや環境教育の充実　子ども向け水道水 PR プログラム「わくわく　すいどうひろば」（紙芝居，歌遊び）を実施　など　a

●お客さま訪問サービスの実施　水道メーター点検訪問時の広報用リーフレットの配布　など　a

④　広報・広聴の充実と積極的な情報開示による事業の透明性の確保

29 年度の主な実績

●積極的な情報発信と分かりやすい情報開示等による広報機能の充実

・「おいしい！大好き！京(みやこ)の水キャンペーン」の実施，ミスト装置＊2 普及促進事業の実施　など　a

●お客さまの声を反映するための広聴機能の充実

・上下水道モニター施設見学会・意見交換会の実施，大口使用者に対する使用状況調査の実施　など　a

「おいしい！大好き！京(みやこ)の水キャンペーン」
（お風呂の魅力や効能などを啓発するワークショップの様子）

【中期経営プラン（25～29 年度）に対する進捗状況】

29 年度末時点における 5 箇年全体の進捗状況	順調に進捗した。	お客さま満足度向上に向けた各種施策や広報・広聴活動を積極的に推進し，営業所の抜本的再編についても計画どおり実施するなど，単年度評価は，平成 25 年度以降 4 年連続でＡ評価で推移していることから，プランに対しては「目標以上に達成」しています。

＊1　口座振替依頼書，クレジットカード継続払申込書，水道メモ（上下水道に関する手続きや料金等について掲載したパンフレット），京都市上下水道局からのお知らせ（お支払方法の変更案内や悪質業者への注意喚起に関するチラシ），京の水宣言（京都の水を「おいしい」「大好き」と宣言するためのチラシ），及びマグネット（管轄の営業所等の連絡先を記載したもの）を封入したもの。

＊2　水道水を特殊なノズルで微細な霧にして噴出し，水を効果的に気化させ，その気化熱が周囲の熱を奪う現象を利用し，周辺気温を下げる装置のこと。

重点項目⑤　経営基盤の強化

29 年度の単年度評価	A	職員定数の削減や企業債残高の削減，保有資産の有効活用のほか，職員の育成や知識・技術の継承・発展に係る取組についても積極的に推進することでＡ評価となりました。

①　経営環境の変化に対応した経営の効率化

29 年度の主な実績

●**事業の効率化の推進**　組織改正の実施，職員定数の削減（△6 人）　a

②　持続可能な事業運営のための財務体質の強化

29 年度の主な実績

●**企業債残高の削減**　自己資金の活用による企業債の発行抑制　など　a

●**未納金徴収体制の強化**

・営業所の特別滞納整理班とお客さまサービス推進室が連携し，未収金削減に向けた取組を実施　a

●**保有資産の有効活用**　保有地の売却，多角的な広告事業，琵琶湖疏水通船の本格運航の開始　など　a

●**上下水道サービスを持続していくための効率的な再投資**

・太秦庁舎敷地内に，体験型研修施設（水道技術研修施設）を整備　など　a

琵琶湖疏水通船事業については，平成 25 年 12 月の京都市長及び大津市長参加による船下り試乗会の実施を契機に，以後計 5 度に及ぶ試行事業を重ね，平成 30 年春から本格運航を開始しました。

沿線の魅力を発信するプロモーションや事業を担う人材の育成等，疏水路の管理者として運営を支援し，琵琶湖疏水建設の意義やその歴史的価値をこれまで以上に強く発信します。

③　人材の育成や技術の継承・発展と国際貢献の推進

29 年度の主な実績

●**人材活性化に向けた取組の強化**　新たな計画である「企業力向上プラン（2018-2027）」の策定　など　a

●**職員の意欲・やる気を引き出す取組の充実**　職員提案件数 108 件（目標 100 件）　など　a

●**職員の能力発揮のための職場環境の整備**

・特定事業主行動計画「仕事とくらし　きらめき　スマイルプラン」に掲げる行動項目の実施，メンタルヘルスケアに関する研修及びストレスチェック制度の実施　など　a

●**国際協力事業の推進と国際貢献を支える人材の育成**

・海外研修員の受入れ
（水道・下水道施設で延べ 29 箇国 169 名）　など　a

●**知識・経験や技術・技能の継承**

・太秦庁舎敷地内に，体験型研修施設（水道技術研修施設＊1）を整備，各職場におけるナレッジマネジメント＊2の運用及びフォローアップ調査の実施，
京都府が主催する「京都水道グランドデザイン」検討委員会に参画し，テーマ別検討グループ会議に参加　など　a

水道技術研修施設

【中期経営プラン（25～29 年度）に対する進捗状況】

29 年度末時点における 5 箇年全体の進捗状況		「第 5 期効率化推進計画」及び「財政基盤強化計画」に基づく各種取組を着実に推進することで，単年度評価は，平成 25 年度以降 5 年連続でＡ評価で推移したことから，プランに対しては「順調に進捗した」としています。

＊1　技術継承と担い手の育成を図るため，水道管路に関する実技研修を行うための施設。
＊2　個人の知識・技術（ナレッジ）を職場で共有し，ノウハウとして蓄積していく手法のこと。

中期経営プラン（2013-2017）の総括について

「京（みやこ）の水ビジョン」の後期５箇年の実施計画として，前期における状況の変化を踏まえ，「市民の皆さまのくらしを支える安全・安心な上下水道の整備」を目標に，改築更新の推進，災害対策の強化，環境対策の充実，お客さま満足度の向上，経営基盤の強化の５つの重点項目を掲げ，事業を推進しました。

①　事業推進計画

水道事業・公共下水道事業共に老朽化した管路・施設の更新及び耐震化を推進するとともに，それぞれ以下の取組等を実施しました。

《水道事業》配水管更新のスピードアップ（年 1.2%まで引上げ），道路部分の鉛製給水管の解消　等
《公共下水道事業》雨水幹線等整備による浸水対策，施設規模の適正化，高度処理施設整備　等
《その他》山間地域の水道・下水道事業の統合，大規模太陽光発電設備の設置や再生可能エネルギーの利用拡大，お客さまサービス向上の取組（料金収納サービスの充実や積極的な広報活動）等

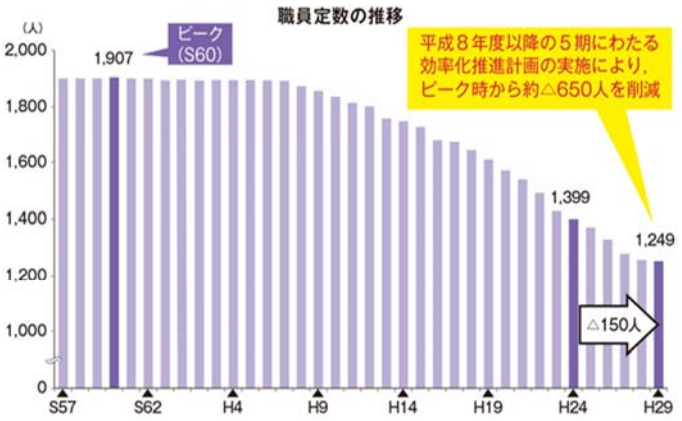
配水管更新工事

整備中の雨水幹線

山間地域の水道･下水道事業の統合

②　経営効率化の取組（第５期効率化推進計画）

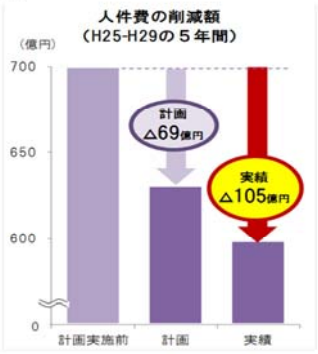
事業を取り巻く経営環境が厳しさを増す中で，営業所の抜本的な再編（9 営業所→5 営業所），水環境保全センターの施設規模の適正化・施設の再編成，水道開閉栓業務における民間活力の積極的導入を進め，150 人の職員定数を削減しました。

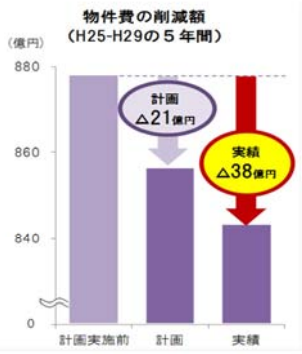


③　財政基盤の強化

５箇年の合計で，水道料金収入は 35 億円，下水道使用料収入は 25 億円，プランを上回りました。

一方，支出も経営の効率化による人件費及び物件費の削減を進め，人件費の削減は 69 億円の目標に対して 105 億円の削減，物件費の削減は 21 億円の目標に対して 38 億円と，いずれも目標以上の効果を出すことができました。





《主な数値目標の達成状況について》

中期経営プラン（2013-2017）における主な数値目標に対する達成状況は，以下のとおりとなりました。

未達成の項目については，未達成となった要因を分析したうえで課題を洗い出し，新プランにおいて事業内容を精査し計画を見直すとともに，徹底した進捗管理により取組を推進していきます。

	主な業務指標	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績	目標に対する達成状況
水道事業	配水管更新率	1.2%	1.2%	○
	主要管路の耐震適合性管の割合	49.5%	50.0%	◎
	水道管路の耐震化率	15.4%	15.0%	△※1
	道路部分の鉛製給水管の割合	0%	1.7%	△※2
	有収率	90%	90.4%	◎
下水道事業	雨水整備率（10 年確率降雨対応）	28.0%	28.0%	○
	高度処理人口普及率（下水道）	53.2%	53.2%	○
	合流式下水道改善率	66.2%	63.1%	△※3
	下水道人口普及率	99.5%	99.5%	○
共通	企業債残高	4,722 億円	4,665 億円	◎

※1　主に区画整理事業や宅地開発等に関連して実施する管路の新設工事が予定を下回ったため
※2　鉛製給水管の所有者の所在が判明しない等の理由により，取り替え工事の実施が困難な箇所があるため
※3　地盤条件の影響により対象工事の進捗が遅れたため（平成 30 年 9 月末に目標達成見込み）

上下水道局 NEWS

「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」及び「中期経営プラン（2018-2022）」を策定しました！

水道事業・公共下水道事業が「目指す将来像」や，その実現に向けた平成 30 年度以降の１０年間の取組をまとめた「京都市上下水道事業経営ビジョン（２０１８－２０２７）京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」及び，その前期５箇年の実施計画である「京都市上下水道事業中期経営プラン（２０１８－２０２２）」を平成 30 年３月に策定しました。

このビジョン・プランに基づき事業を推進し，市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を５０年後，１００年後の未来にしっかりとつなぎ，安全・安心を守り続けます。

京の水ビジョン・中期経営プラン

災害用備蓄飲料水「京の水道　疏水物語」が「京のかがやき　疏水物語」として生まれ変わりました！

表　面

裏　面

上下水道局では，平成１５年に「第3回世界水フォーラム」が本市で開催されたことを契機に，各家庭や事業所等での飲料水の備蓄，安全・安心でおいしい世界最高水準の水道水のＰＲを目的として「京の水道　疏水物語」の製造を開始しました。

このたび，賞味期限を１０年（以前は5年）に延長すること等を踏まえ，より皆様に親しんでいただき，手に取ってもらいやすくするため，名称を「京のかがやき　疏水物語」に変更しました。また，デザインは特定非営利活動法人障碍者芸術推進機構「天才アートＫＹＯＴＯ」から提供いただいた作品の中から採用し，平成 30 年３月１日からリニューアルした疏水物語の販売を開始しています。

琵琶湖疏水記念館の入館者数が２５０万人に到達しました！

琵琶湖疏水記念館は，平成元年８月に琵琶湖疏水竣工１００周年を記念して，疏水の意義を多くの方に伝え，先人の偉業を顕彰するとともに，将来に向かって発展する京都の活力の源となることを願い開館した施設です。

市民の皆様はもとより，観光客や海外からの視察等，多くの皆様に御来館いただき，平成 30 年１月には延べ入館者数が 250 万人に到達しました。

なお，琵琶湖疏水記念館は，開館３０周年を迎える平成 31 年にリニューアルを予定しています。

琵琶湖疏水記念館

●より詳しい経営評価結果は，上下水道局ホームページ又は市情報公開コーナー等で本冊をご覧ください。

ホームページアドレス　http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/

京都市水道事業・公共下水道事業経営評価　検 索

平成 30 年度　京都市水道事業・公共下水道事業経営評価（平成 29 年度事業）　平成 30 年 9 月発行

京都市上下水道局経営戦略室　〒601-8004　京都市南区東九条東山王町 12 番地　TEL 075-672-3114　FAX 075-682-2711

すみと 澄都くんのつぶやき 京都市上下水道局公式ツイッター 水道・下水道事業の情報を発信! フォローしてね♪ @sumito_kyoto

すみと 澄都くんのfacebook 京都市上下水道局公式フェイスブック 「いいね!」してね! すみとFacebook

ふるさと納税で通船復活 詳しくはウェブサイトへ びわこそすい ふるさと納税